第２回　（仮称）練馬区地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会
議事概要

《日時・場所》

１　平成 23 年６月８日　午後６時～午後８時
２　場所　練馬区役所本庁舎５階　庁議室

《次第》

１　開会
２　委員紹介（第１回懇談会を欠席された委員について）
３　第１回懇談会の議事概要
４　議題
　（１）第１回懇談会における主な意見等について
　（２）練馬区における調査結果について
５　その他

《出席者》

大垣喜久江委員、岡田尚子委員、小川善昭委員、小美濃千鶴子委員、加藤政春委員、鈴木恭一郎委員、玉井弘子委員、玉野和志委員、田村哲明委員、浜屋光正委員、原秀年委員、平田稔委員、森本陽子委員

（区出席者）区民生活事業本部長、産業地域振興部長
（事務局）地域振興課職員　５名
（傍聴者）なし

１　開会

■座長

・第２回地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会を開催する。

・まずは、前回欠席された委員の方に自己紹介をお願いしたい。

２　委員紹介

－Ｄ委員による自己紹介

■座長

・事務局から関連事項の報告をお願いする。

■事務局

－資料１の説明

・Ｑ委員より、一身上の都合により懇談会の委員を辞退したいとの連絡があったので、懇談会の委員名簿を修正した。

・また、事務局についても、区民生活事業本部産業地域振興部長が５月 26 日付けで異動があったので修正した。

・産業地域振興部長より挨拶をさせていただく。

－産業地域振興部長挨拶

３　第１回懇談会の議事概要

■座長

・第１回懇談会での議事概要について、事務局から確認をお願いする。

■事務局

・第１回懇談会議事概要は、加筆・修正等があればお出しいただきたい。

・何もなければ、今後、区のホームページでも公開していく。

■座長

・特に意見等がないので、議事録については、区のホームページでも公開していく。

４　議題

（１）第１回懇談会における主な意見等について

■座長

・１回目の懇談会では、活発な意見交換が行われた。

・今後の懇談会の進め方については、１回目の懇談会で出された意見を基盤としながら、２回目以降の懇談会の進め方を考えることとした。まずは、前回の懇談会を振り返る意味も含め事務局から前回の意見内容をまとめた資料の説明をお願いする。

■事務局
－資料２の説明
■座長
・前回の懇談会の議論を思い返せたと思う。続いて、練馬区における調査結果の資料が用意されている。前回は地域で活動している各委員から地域の現状についての意見を伺ったが、地域に関心を持たない方などの意見も含め、一般的に地域の現状を認識するために参考となるので、資料３と資料４の説明をお願いする。

（２）練馬区における調査結果について

■事務局
－資料３の説明
－資料４の説明
－参考１の説明
－参考２の説明
■座長
・始めに前回ご発言がなかった委員や初めて出席された委員にご発言いただきたい。
・まずは、Ｄ委員に発言をお願いする。
■Ｄ委員
・最近、地域で活動していて気づくことは、私たちが子どもだった頃と、今の子どもたちでは、ボランティアに関する意識が変わっているということである。「ボランティア」という言葉をよく使い、ボランティアに参加する意識も持っている。大学では、ボランティアが単位にも認定されている。
・昔は、ボランティアというと「ただ働き」のイメージだった。20 歳の頃にアメリカに行った際、現地の人は午後５時に仕事を終えて帰る人が多かった。「早く帰宅して何をしているのか」と聞くと、教会でボランティア活動をしているとの答えが返ってきた。彼らは、自分のことを話す際、職業は言わずに、活動しているボランティアのことを話している。ボランティアをすることがステイタスにもなっていた。当時は、日本とは随分ちがうと思っていたが、最近になって、日本も変わってきた。日本の子どもたちも同じように変わってきた。とても素晴らしいことだと思う。
・私が成人した頃は、マンションブームだった。その頃は「個人の生活を大事にすることが良い」といった意識の方が多かった。最近は、防災・防犯などのこともあり、コミュニケーションを取ろうという動きも少しずつ出てきている。
・地域で何かをする際、きっかけが大切である。区役所が地域に仕掛けることも大事である。
・約５割の人が町会・自治会に加入していないのは、新たに引っ越してきた人が多く、地域でまとまっている町会にはなかなか入りづらく、また、情報もない。

・戦後、環七や目白通りなど大きな道路ができ、町会が分断された地域もある。そうした町会は、活動も分断されている。こうしたところも少し変えていければと考えている。
・ボランティアに参加する意識を持った最近の子どもたちには大いに期待したい。
■座長
・次にＦ委員に発言をお願いする。
■Ｆ委員
・私たちの町会は非常に高齢化してきている。若い人に声をかけるが子育てや介護などで忙しく、なかなか参加が望めない。フリーマーケットなどのイベントでは人が集まるが、単発的で続いていかないのが現状である。
・私の住んでいるところは、住宅街の中にある町会なので、町会の祭りや盆踊りなどの際にはお手伝いなどの問合せあるので、何か社会に貢献したいという気持ちがある人は増えているのではないかと感じている。
■座長
・次にＬ委員に発言をお願いする。
■Ｌ委員
・前回の懇談会で、ＮＰＯなどのテーマ別団体は、時代に即した活動をしているとの話が出ていた。テーマ別で活動している個人や団体は、各々の関心があるテーマを自ら選択して活動しているため、そこに活動が活発になる要因があるのではないかと思う。逆に言うと、興味が薄れた時、あるいは活動が一定の役割を果たした時には、その活動は終息していったり、変化していったりする要素はあり、連続性、継続性という意味では、地縁の活動団体とは違った要素を持っている。こうした両者がそれぞれの特性を活かし、協働して上手くつながっていくことが求められているのではないかと思う。
・様々な団体と町会・自治会がつながることでどんなメリットがあるのか、何が得られるのか、情報が行き渡ることが大事である。
・地域ごとに状況が違うということもある。その地域では何が必要なのかなど、意見を吸い上げる仕組みもあると良い。
■座長
・次にＮ委員に発言をお願いする。
■Ｎ委員
・地域活動をしている人は様々な活動に関わっているが、何もしていない人は本当に何もしておらず、その差が非常に大きいと感じている。
・何もしていない人に話を聞くと、「何をして良いか分らない」という意見が多い。地域で情報を得る場所がなく、地域活動の情報が上手に伝わらないことが大きい。
・学校単位ではＰＴＡや学校応援団などもあり、地域でのコミュニケーションもある程度は出来ていると思う。学校を離れてしまうと、どこともつながらなくなることが多い。青少年育成地区委員会などの活動をしていると「まだやっているの」と言われることも

ある。
・地域活動へ参加してもらうには、何がメリットになるのかを示す必要があると思う。区の力は大きいと思うので、区と連携して情報を伝えていくことが必要だと思う。区が取り組んでいることなら、皆さん安心できるようだが、地域の団体の活動だと信用してもらうにも時間がかかる。アンケート結果にもあったが、区の協力を得られると活動しやすいのではないかと思う。
■座長
・前回、ご発言いただかなかった委員よりご意見をいただき、全員のお考えなどを聞くことができた。
・懇談会は月一回程度の開催であり、約半年で結論を出していく予定である。更に意見交換しながら、地域コミュニティの活性化にとってポイントになることなどをまとめ、次回からは、ある程度テーマを絞って議論をしていきたい。
・各委員より自由にご発言いただきたい。
■Ｐ委員
・インターネットで町会の役割について確認した。何故かというと地域の中で一番身近な団体は町会だと思っている。また、子どもがいる方は、学校とのつながりが多いと思う。
・町会について、全国的に大きく２つの特徴があることが分った。一つ目は役員の方が忙しいこと。二つ目は若い人が参加してくれないことである。
・アンケート結果を見ると、区民の意識は総論賛成、各論反対で他人任せのように感じる。なぜ、皆さんが活動に参加しないか私には理解できない。参加をしようとしない人は、本当に参加しようと思っていないのか疑問である。
・また、「参加するための情報がない」という結果もあるが、区が出している情報の浸透率はどのくらいだと考えているのか。区報で情報を発信しても、それを読む人が少なければ効果がない。
・身近なコミュニティとして、町会の役割は何なのか、また、住民は何を期待しているのかを検討することも必要だと思う。
■座長
・他に意見はあるか。
■Ｏ委員
・町会は一番大きい住民組織であり、無視することはできないと思う。むしろ町会を良くする方法を考え、それを地域コミュニティの活性化に結び付けていくことを考える必要がある。現状では、若い人が加入してくれないことや役員が高齢化していることなど、さまざま課題があると思うが、町会は、テーマ別団体よりもさらに大きな活動を地域の中でしている。盆踊りやお祭りをやると大勢の方が集まってくる。こうした行事を利用して、町会に関心を持ってもらえるような仕掛けを考える必要である。
・町会の活動の一つに避難拠点訓練がある。これには消防やＰＴＡ、商店街の方、農業関

係者などが参加している。こうした多くの地域の方が集める活動は、テーマ別団体では難しい。

・町会の長所を認識し、更に良くするという視点で検討していくべきだと思う。

■座長

・ここまで町会に関する意見が出ている。町会活動を中心に担っている方々はどのようにお考えか。

■Ｂ委員

・町会の役員は、自分の時間の中で多くの時間を割いて活動している。

・例えば、交通安全週間になると、町会・自治会の役員が中心となって、交差点で子どもたちの誘導のための人を配置する。10 日間で延 180 人くらいが必要であり、町会の役員だけでは大変である。学校を通じてＰＴＡにも協力をお願いしたが、応援してくれるところまではいかない。

・学校はＰＴＡでまとまっている。一方、町会は町会でまとまっている。お互いがギブアンドテイクの関係になることができれば、若い人もいっしょに活動でき、もう少し良い状態になるのではないかと考えている。

・避難拠点の活動で、年一回、学校の特別授業として小学生１年生を対象に防災訓練を行うようにした。避難拠点のメンバーにはＰＴＡの方も入っているが、なかなか参加してくれないが、このような小学校での防災訓練にはＰＴＡの皆さんも参加してくれる。このような取り組みを一つずつ積み重ねながら、連携できるようになればと考えている。

■座長

・他に意見はあるか。

■Ｒ委員

・それぞれのグループがそれぞれのネットワークを使いながら頑張っているのが現状だと思う。

・なぜ、今、地域コミュニティ活性化についての議論をしなければいけないのか、その根っことなる部分を考える必要あると思う。

・先ほど、アメリカのボランティアや若い人達の価値観の話があったが、そこにあるのは、他人のために汗をかく喜びだと思う。議論の中に、「活動するメリットを明確にすること」や「活動するための情報を出してもらうこと」といったことがあったが、そうでは無いと思う。自分が自分のためだけでなく、子どもたちやハンデキャップを持った人たちなどのために、何か汗をかくこと、利他の精神である。他人のための何かしようと思ったら、今の時代だから、自分で探すし、聞くし、動くだろうと思う。そこにどう火をつけていくか、根っこの部分を見据え、また、どうして今それをするのかの必然性を含め、議論していくことによって、ボランティアや町会、行政の役割も見えてくるのではないか。

・「何かやってくれる」あるいは「情報をたくさん欲しい」といった欲しがる生き方は良く

ないと思う。ボランティアにはミッションがあり、自分たちで活動したい思いがあるから一点突破ができる。多くのＮＰＯができ、それぞれのＮＰＯが、行政の役割と分担をしながら、自分だけのためでない生き方と、地域での顔と顔が見える関係づくりにステップを踏んできていると思う。もう一度、ボランティアの役割、行政の役割を考えながら、地域活動やボランティア活動について気にはなっているが参加しない人たちの原因を探っていく必要があると思う。

・私は、教育が大事だと考えている。小さいときからの教育のあり方や家庭の役割などを含めた議論をしながら、各委員の立場で根っこの部分を見つめていくこと、こうした方向での議論を期待したい。

■座長

・違った角度での意見をいただいた。

・他に意見はあるか。

■Ｃ委員

・今回の懇談会の目的は町会に限ったことではない。町会の加入率が 40%というのは、場合によっては、それで良いのではないかとも考えている。

・商店街に吉本興業の芸能人が来て、学校帰りの子どもが一緒に写真を撮った。しかし、写真の送り先を聞いても、子どもからは住所を教えてもらえなかった。個人情報保護などの問題やさまざまな事件があるため一概には言えないが、地域でのコミュニケーションが取りづらくなっている。

・先ほどアメリカのボランティア活動の話があったが、日本の学生のほとんどはボランティアよりはアルバイトをしている。アメリカの良いところを学んで欲しいが、なかなか難しそうな気がする。

・町会のことだけではなく、地域に関わるすべての団体がどうしていくのか、という議論が必要ではないかと考えている。

■座長

・他に意見はあるか。

■Ｅ委員

・何をもって地域コミュニティの活性化とするのか、まだ良く見えてこない。アンケート結果を見ると、ボランティアをしたい人もいれば、したくない人もいる。ボランティア活動に参加することや町会に加入することで活性化したかというと、必ずしもそうではないのではないかと思う。座長や区の意見も伺ってみたい。

■座長

・他に意見はあるか。

■Ｏ委員

・欧米人のキリスト教の教えを精神の土台としている国と日本人の精神とは大きな違いがある。欧米人は財産を寄付して社会に貢献しようとする文化や価値観がある。日本では

あまり例が無いと思う。

・町会やＰＴＡ、青少年育成など、行政の縦割り組織がそのまま地域に投影されているように思う。これを繋げていくような組織、人材を育成しないと、町会と地域団体や市民団体が結びつかない。行政は縦割りであるからこそ良い仕事ができる。区民は、行政の縦割りの仕事を横に見ていくことでいろいろなアイデアが出るし、新しい協働のスタイルが見えてくるのだと思う。

■座長

・他に意見はあるか。

■Ｋ委員

・アンケート結果では、防災やリサイクル、子育てや弱者の支援などの活動をするべきだという回答がある。実際にはこうした活動は、目的別の団体が既に活動している。しかし、こうした目的別活動団体の活動基盤と地域コミュニティは一致していない。このギャップを埋める中間的な支援をするのが、行政ではないかと考えている。

・中学校のＰＴＡ会長もやっているが、ＰＴＡの会長は、青少年育成や避難拠点にも参加する。そのすべての活動に参加しても、結局、個別的な活動であって、それらを繋げる役割はできない。やはり、それぞれの活動をコーディネートする組織があり、例えば、その組織を介して、町会に加入しなくても自分のやりたいことに参加できれば良い。そうした組織があれば、参加の間口が広がるのではないかと感じている。

■座長

・ここまで町会に関するご意見や、町会だけでなくすべての団体について見ていく必要があるといったご意見、もっと根底的な部分から考えていく必要があるといったご意見をいただいた。

・町会以外の地域活動をしている学校やボランティア活動の面からのご意見をいただきたい。

■Ｄ委員

・４年前、区から豊玉東小学校で学校応援団をつくるという話があった。何のために応援団をつくるのかを伺うと、学校という 3,000 坪の敷地で自治をして欲しいということであった。空いた教室を使い、収益事業をしても良いという話だった。行政の方は、阪神淡路大震災の際に、「おにぎり戦争」が起こったことなども危機意識として持っていた。

・今は、学校のＰＴＡ会長が町会長なるケースが多い。昔は地主さんが町会長なることが多かったが、最近は、町会と学校などが掌握できる人が比較的多くなっている。そうしたところに行政が目を付けたのではないかと感じている。学校のように、何か核があればコミュニティの活性化はできるとは思う。防災活動も行うし、お母さん方もたくさんいる。子どもは大きくなって戻ってくる。長い目でみれば可能性はあるが、学校が 100 校もあるので、ちょっと多すぎると思う。

・しかし、そのような核となるものが必要ではないかと考えている。いま学校応援団の活

動をしているが、拡大して何かできるのではないかと感じている。

■座長

・他に学校関係で意見はあるか。

■M委員

・ＰＴＡ会長を３年間やった後、学校の芝生化に取り組んだ。なぜ、芝生化の話になったかと言うと、自分がＰＴＡの会長のときに、ＰＴＡはお母さんたちが大半だった。そこで、小学校の活動にお父さんも参加してもらうため「おやじの会」をつくった。そこに参加していたお父さんの話から始まったアイデアだった。地道に活動をしていたら、区から話があり芝生化に取り組んだ。

・「おやじの会」も活動するにつれ、少しずつ人数が減ってきた。原因は、現役のお父さんを中心に活動していたので、それ以外のお父さんは参加しにくかったのではないかと考えた。子どもは学校を卒業しても同窓会などのつながりがあるが、親は何も残らないということが課題だった。そこで「おやじの会」を在学に関係なくオープンにしたところ、今は 50 人くらいの活動になっている。そこからＳＳＣの活動にも広がってきている。

・先ほどから町会に関するご意見が多数出ているが、町会は古い組織なのでなかなか変えていくのは難しい。町会は地域の核となる組織であり、他の団体は、町会を補完していくものであると思う。そうした点からコーディネートする人がいると上手く機能するのではないかと思う。

■座長

・他にＮＰＯやボランティア関係で意見はあるか。

■Ｋ委員

・ＮＰＯは、自分たちのミッションがあるので、自分たちの活動にそぐわないことはやらないと思う。ただ、アンケート結果を見ると、自分たちのミッションに合ったニーズはある。自分たちのミッションに合ったニーズがあっても活動の場所が得られないという現状もある。そうしたことから、コーディネートが上手くできれば、ＮＰＯ活動の育成や区内の活動の活性化にもつながると思う。一方、町会もそうした目的別のＮＰＯとつながることで、自分たちの活動を充実していくこともできると思う。

■M委員

・ボランティアやＮＰＯ活動の多くは特定の地域を意識した活動ではないが、活動の場は必要だと思う。地域のイベントなどでつながる例もある。例えば、地域のお祭りで、子ども関係のＮＰＯが町会と一緒に取り組むことなどで、新しい視点での活動の切り口ができる。そうしたつながりや出会いの場、あるいは繋げる人というのが大事だと思う。

■座長

・活発なご意見をいただいた。これまでの意見を踏まえ、次回からテーマを絞り議論をしていきたいと思う。

・これまでの意見を整理すると、町会をどうしていくのか、地域コミュニティの活性化と

はどのようなものなのか、町会や学校関係とＮＰＯを含めた全体のコーディネートの必要性などについてである。今後、懇談会で重点的に議論するテーマとして、これまでに出ていない論点がないか、ご意見をいただきたい。

■Ｐ委員

・町会の活動は多岐に渡っている。例えば、環境面では、ごみ、リサイクル、まち美化などがあり、安全安心の面では、防犯・防火・防災、福祉の面では、募金活動や高齢者、子どもの見守りがある。その他に、行事としてのお祭りやレクリエーション、勉強会などがある。更に、行政からの情報伝達などの行政とのつながりや、自分たちの地域の声を吸い上げて陳情なども行っている。本当によく活動をしていると思う。その一方で、地域では、それぞれの活動に特化したＰＴＡや青少年育成などの活動団体もある。

・様々な団体が地域の中で同じような活動をしている。その状況で一体どっちの団体が主体となって活動するのかを考えることも必要ではないか。町会は加入率４割の組織であることを踏まえると、町会に協力を依頼して活動するのが好ましいのではないかという気もする。懇談会では、町会の現状を踏まえながら、町会のあり方、立場などを理解しながら議論をする必要があると考えている。

・町会の大きな目的は互助と親睦である。互助の中から、いろいろな課題への取り組みが行われてきたと思うが、あまりにも活動が広がり過ぎているようにも思える。この加入率４割強の町会という組織について、一度議論する必要はあると思う。

■座長

・地域コミュニティの活性化という議論の中で、町会という組織が果たす役割や地域での位置づけなどについて、懇談会の場で意見交換することは必要とのご意見をいただいた。

・他に意見はあるか。

■Ｆ委員

・町会は、地域ごとの実情があり、地域によって持ち味や特性もあると思う。私の住む地域では、活性化してきているように感じている。町会のあり方を固めてしまうのではなく、地域に合った方法で、活動すれば良いと思う。

■座長

・他に意見はあるか。

■Ｏ委員

・町会は昔から活動している方が多く、新しい住民が参加して意見を言うことは大変である。また、町会に全ての話を持っていくのは難しいと思う。例えば、見守り訪問員と民生委員が集まり、地域包括センターでミニ地域ケア会議を行っている。最初の頃は、見守り訪問員と民生委員とのコミュニケーションを取れなかったが、徐々に関係が深まってきている。こうした場を設けること、つながりを作れることができるのは、行政である。

・地域でも多くの団体が活動しているので、このような懇談会を各地域で行い、その地域

で活動している団体の代表者に集まってもらうことにより、地域がつながっていくのではないか。

・大泉学園では、ボランティア活動をしている人たちが、町会や行政に頼らず、2,000 人を集めるイベントを実施している。他にも介後施設の方が集まってイベントをしている例はあるが、地域の人たちはあまり認知していない。テーマ別活動をしているは、内向きに活動することが多い。

・行政が主体となって地域ごとに活動している人同士が会えるような場を設けて欲しい。行政からの働きかけであれば安心感もあるので、町会や学校関係、ＮＰＯなどが同じ席につきやすいと思う。

■座長

・各委員の意見を伺うと、町会を中心として議論していくことが一つある。また、もう一つは、町会だけでなく様々な団体がつながる仕組みづくりのことがある。これらとは別に、そもそも地域コミュニティ活性化とは何かという話もある。

・各委員に伺いたいのは、懇談会の場で、地域コミュニティの活性化がどうあるべきかについてイメージを共有するため、そもそも地域コミュニティ活性化とは何かについて、一度議論する必要があるかどうかである。

■Ｄ委員

・私は青少年育成委員会の第一地区で活動をしているが、この地区には、学校８校と町会・自治会が 26 団体ある。助成金を使って地域祭りを行うため、町会に呼びかけたところ、10 団体が協力してくれた。その中で、力のある町会３団体に中心となって運営してもらうようになった。実際には 10 団体を小学校５校の５地区に分けて地域祭りを運営していただいた。小学校区には複数の町会があるので、町会同士で調整をしてもらった。

・エリアを決めて、核となる人や物があると、地域が動いたり、つながったりすると思う。そのような仕掛けを作っていくと良いと思う。

■Ｒ委員

・できるだけ具体的なものを、継続して話し合うことが大事だと思う。

・地域コミュニティの活性化とは何のか、そもそも論について話し合っておくことは大切だと思う。大震災があり、地域がいかに命を支え、ご近所づきあいが次の一歩を踏み出す力になるかということを考えていく、あるいは問題提起をしていくには、良いタイミングであると思う。

・また、地域で活動している様々な分野の人たちが、議論し、お互いの活動や地域の課題を共有しながら、具体的なことについて考えることができる場と機会を作っていくにも良いタイミングであると思う。

■座長

・これまでに出ていない論点がないか、ご意見いただきたい。

■Ｂ委員

・町会の中には、練馬区町会連合会に入っているところと入っていないところがある。そこで、町会連合会を旧出張所の管轄単位で 17 支部に分け、各支部会には、その地域の全町会・自治会に参加をしてもらっている。これを行うことで、行政からの情報が地域に入っていくようになった。大きく分けてまとめようとしてもなかなか難しい。もう少し細かくしていくと、学校をはじめ、さまざまな団体も参加することができ、コミュニケーションが図れるようになるのではないか。

・私が住んでいる地域の地区祭では、その地域のすべての団体が参加している。その時には、コミュニケーションが図れる。このような単位でまとまる仕組みがあると、お互いが連携できるのではないか。

■Ｋ委員

・町会に加入していない人もコミュニティの対象である。その人たちをどのように取り込むのか、どのような仕組みでアプローチをしていくかという議論も必要だと思う。

■座長

・本日は、各委員から多くのご意見をいただいた。今発言にあったが活動してない人をどうように取り込むのかも大きな話である。また、委員からの発言には無かったが、このような会議でよく議論になることとして、参加者を増やすための仕組みづくりや、地域の団体が活動しやすくなるような支援をどうするかといったことがある。こうしたことは、今まで出ているテーマのなかで加味して検討できるものであると思う。

・次回以降は、まず、地域の活動にあまり参加していない人をどうするかということを絡めながら、そもそも地域コミュニティの活性化とはどのようなイメージなのか、どうなったら良いのかを考えることから話を始める。そのイメージの中で、町会はどのように位置づけとなるのが良いのか、あるいは他団体と結びつけるような仕組みを作っていけば良いのかということで話を進めていくと、活性化プログラムの提言に繋がっていくのではないかと考えている。

・私と事務局とで本日の意見を踏まえて、論点を整理して次回以降の予定を組んでいく。

・次回は、地域コミュニティの活性化をどのようなものとしてイメージするかを意見交換したい。次回に向けて、各委員の得意な部分で準備をしてきていただきたい。例えば、この時代に地域に参加するということは、どのような意味があるのか。また、町会やＰＴＡの方などは、活動をしている中で、どのようなところで悩んでいて、どのような状態になれば良いと考えているのかを、それぞれ具体的に紹介して欲しい。

・また、事務局の活性化のイメージについての考え方を聞きたいという意見がある。本来、懇談会が決めていけば良いことであるが、議論の題材として、この懇談会を設けるにあたって、行政としての意図と活性化についてどのように考えていたのかを、紹介してもらう。

・まずは、区の考え方も確認しつつ、各委員からのできるだけ具体的な活性化のイメージ

についてご意見をいただきながら、懇談会として活性化のイメージを確認する。その上で、どのような提言をしていくかを整理していくのがまとめやすいと思う。

・その後に、町会や地域のネットワーク、活動に参加しない人をどうするかといったテーマで議論をしていくことになっていくと思うが、それは、次回以降の予定としてお示ししていきたい。

・このような予定で懇談会を進めていくことをご了承いただきたい。

5　その他

■事務局

・次回以降の日程の調整をお願いする。

・第３回は７月 11 日（月）、第４回は８月 11 日（木）、第５回は９月１日（木）を予定日とする。また、第６回以降は、適宜調整する。

■座長

・あと３回は具体的なテーマについて検討を行い、10 月には提言として取りまとめていくことになる。今後とも、協力をお願いする。

・以上で第２回懇談会は終了する。